

## 円福寺開山 南溟殊鵬和尚の歴史調査

観念寺誌 二二、南溟殊鵬和尚について」 八十一頁参照

南溟和尚は豊後田原府（大分県）、豊前刺史藤原貞広の子にして幼時、田原宝陀寺開山悟庵智徹（聖一国師の法孫）につきて剃髪し、同国大分の萬寿寺の玉峯妙圭禅師に嗣法して同国實際寺、宝陀寺（七世）に住持し、同じく竹田郷香賀地の施恩寺・羯諦庵を開き、伊予（愛媛県）に飛錫して桑村郡上市において観念寺を経営し、晩節、遠江（静岡県）の金剛山貞永寺（諸山位）開山となり、康安元年八月二日示寂せりし、その嗣に名僧幾多あり。と「続禅宗編年史」 白石芳留著（六八四頁）に記している。

従つて荒廢せる当寺（観念寺）を復興した越智盛清らにより、当寺へ招聘された鉄牛和尚は、先の南溟和尚の道場地を引継ぎ、禅風を拳揚したため、師を二世の祖師に擬したものであつて、実際は南溟和尚が鉄牛和尚に嗣法したものでなく、また二世の住持となつたものでもないのである。現在当寺歴代住持中より南溟和尚を除去しているし、またその法系は

仏光国師（鎌倉円覚寺開山）↓仏国国師↓玉峯妙圭↓南溟殊鵬↓略 である。要するに南溟和尚は鉄牛和尚入寺前に当山（観念寺）に道場を開單し（正和四年頃より十二年間と推定）、法幢を掲げていたもので、従つて鉄牛和尚は中興開山（のちに開山とす）であるが、南溟和尚の創業について何等の古文書が現存していないところを見ると、師は創業半ばにして去つたものであろう。

### 「円福寺開山の史実」 観念寺誌八十二頁参照

天明七年（二七八七）公儀（十一代將軍家齋）へ差出した「本末帳」によれば、南溟和尚は当寺（観念寺）の末寺円福寺（明理川）の開祖となつている。円福寺にその靈牌も安置している。即ち南溟和尚が観念寺に道場を開いて、禅風を拳揚していた頃、円福寺を明理川に開山した。との記述がある。

### 観念寺の「開山堂に安置した像」について 観念寺誌五十三頁参照

- 一 開山鉄牛和尚像（木造 二尺三寸五分）中央に安置
  - 二 南溟和尚像（木造 一尺八寸五分）向かつて右に安置
  - 三 黄龍中興詒天和尚像（木造 二尺二寸五分）向かつて左に安置
- これらのことから南溟和尚が観念寺歴代ではないにしても、相応の処遇で、開山堂にては開山鉄牛和尚の左上座に祀られている。

右 平成二十七年十一月吉祥日

江西山 円福寺 住職 石丸祖岳 謹誌

